

# 答 辞

本日はかくも多くのみなさまの御臨席のもとここに卒業の日を迎えられましたこと心より嬉しく思う次第でございます。

フクオカ ヨシマサ 福岡喜正 同窓会副会長、クワズル マサフニ 桑水流正邦 同窓会幹事長をはじめとする御来賓の皆様に

おかれましては、在学中に多大なる御支援を賜りましたことに加え、御多忙の折御列席を賜りましたこと感謝申し上げます。

またイケダ ヤスオ 池田康夫 学園長、モトキ タカシ 元木隆史 専務理事をはじめとする学園の皆様、スギヤマ マサケシ 杉山剛士 学

校長をはじめ、六年間 私どもを近くで見守り育てていただきました高校中学教職員の皆様、さらには、別に来なくてもいいよと息子に言われながらもわざわざ休みを取って門出を見届けに来てくださった保護者の皆様、そして皆により、

貴重な春休みを割って、ただ後輩諸君に、  
心より感謝を申し上げます。

先に式辞を賜りました杉山先生には、我々の入  
学と時を同じくして武蔵へ戻っておいでになったと  
いうこともあり、お互いに多くの変化に見舞われ  
た六年間を一緒にいただきました。杉山先生、池田  
先生の御兩名からありがたいお祝いの言葉を賜り  
感謝申し上げるとともに、武蔵を巣立ったのちの  
心の支えとさせていただく所存でございます。

さて脳裏に浮かびますのは、六年前の四月、  
この大講堂で行われまして入学式であります。  
雨が降りしきる中、小田急線が運転を見合わせ、  
数名が到着できなかった。そんな先行きが不安な朝で  
あったことを鮮明に覚えております。

雨もあがった頃、緊張しながら組主任の前での  
点呼。フレッシュな雰囲気のア組の先生、どこか  
おっかなびっくりなB組の先生、実は人知れず腰の  
激痛に耐えていたC組の先生、そして何故か  
新入生をこえる熱列な歓迎を受けたD組の

先生。プラスバンドの演奏に緊張が解け、期待をふくらませながら席に着いたときのこと。また、くつろぎと賞えておりました。

あれから江古田の地で過ごした六年間を顧みますと、これでもかというくらい濃密な一日一日が思い出される場所があります。

今までも何もかもが変わった自由な学校生活に心が躍った中学一年生の春。「自由には責任が伴う」という先輩方や先生方のお説教など知ったこっちゃないと言わんばかりに、この環境を楽しみ尽くそうとしたものでありました。

やがて世間がコロナウィルスの流行にさらされる中、自宅でパソコンとにらめっこする日々が続いたり、行事の中止や規模縮小を目の当たりにしたりと、昨年までとは違って制約に囚われる日々を過ごすこととなりました。——同時に我々は、その制約をなんとか一打ち破ってやろうと努力を重ねる先輩方の姿を見ることができたのであります。先輩方のとどまるどころを知らない悪あがきは、良いものも悪いものも含め私どものお手本となっていたのでしう。

中学三年生に進級すると、制約の中で暴れ回ることをすっかり覚えてしまったのが、先生方には大変迷惑をおかけすることになりました。面倒ごとを起こすのは大体がB組だったのかもーれませんが、大ベテランの組主任は怖いほど我々をお叱りになりますんでした。

今思えば何も言わなくとも自分たちでしかりやれよ、というメッセージだったのかもーれません。ーかーながらもちろん、暴れすぎて別の先生方からぶっ飛ばされた同期がいたことは言うまでもありません。

高校生にもなれば少ーは落ち着くというのがせり常なのかもーれませんが、どうやら我々にそういった転機は訪れなかったようです。教室にクリスマス飾りをつけたり、雪の日に教室へ雪だるまを持ち込んでみたり。高校三年生になっても教室で騒いでたら組主様から注意されることもあったり。最後の保護者会で「この組の生徒はまだパンジー」だと言われたこともありました。ーかし、そんな時間もう終わってーまうのだと思うーと、寂ーさを禁じ得ません。

さてこれよりは、在学中の六年間でお世話に

になりました皆様にお礼申し上げることにさせていただきます。ただまだと思います。

まずは、絶えず我々の好奇心を引き立ててくださった先生方があります。六年を通して先生方には、多彩な授業を通じて、文理の隔てにとられず、試行錯誤や調査、研究の魅力に気づく機会を頂戴いただきました。そして、物事を多様な観点から見る、その大切さと、裏を返せば物事を一面的に捉えることの危なさを教えていただきました。試行錯誤と議論を繰り返すという基本姿勢の大切さと、身をもって感ずることができたのは、恵まれた環境あってこそのことであると感ずっております。

一つのことだが記憶は定かではありませんが、ある先生が武蔵での授業について仰っていたことの中に、「武蔵の授業は、生徒が様々な学問に出会いきっかけをつくるものである」といったものがありました。その言葉も伺ったとき、私ははじめて武蔵の環境が如何に有意義なものであるかということ、ひいては学校という場が如何に重要なものであるかということに気づかされるように、大きな衝撃を受けたのであります。

変体仮名を肅々と解読する授業、ラジオを聞  
いてひたすら天気図を書く課題、岩石の薄片を  
これでもかと削る作業、自定の周辺を歩き回って  
作り上げるレポートなど、独特な教えの数々が持つ  
意味を、わずかながら心得ることができたのは、いち  
武蔵生として純粋に嬉しく思ったところであり  
ました。

僭越ながら今後とも先生方におかれましては、このすば  
らしい学びの環境をとこしえに守ってくだされば、  
これからの後輩諸君にとってこれ以上ない喜びに  
なることを確信いたしております。

また授業のほかでも多くのことでお世話になりま  
した。組主任として、行事や委員会、部活動の顧問  
として、絶えず見守ってくださいました。

何より、このあられるほど自由な環境で私どもの  
面倒を見ていただくのが如何に大変なものであるかは、  
想像するに難くありません。放任の学校といわれ  
ながらも、時にはひっ捕まえて叱ってくださる。その  
ありがたみは、卒業する今になってはじめて、身に  
しみて実感しているところがあります。

さて、遅くなつてしまふたが、この場で感謝を申  
上げなければならぬ先生がもうお二人いらします。  
物理科の故大山輝雄先生、オオヤマテロオ同じく物理科の  
故山本祐三先生ヤマモト ユウゾウの両名におかれては、私どもの  
在学中に急逝され、卒業の日を見届けていただく  
ことはかなひませんでした。とりわけ大山先生には組主  
任として中三のやんちゃ小僧であつた我々の面倒を  
よく見ていただきました。両名が安らかにお休みに  
なることをお祈り申上げるとともに、今後とも  
私どもを天上から見守ってくださいよう、ここにお願い  
申上げます。

先生方に限らず、高校中孚事務員の皆様をは  
じめとする学園職員の皆様にも教え切れなほど  
お世話になったものであります。行事をはじめ我々の  
自主的な活動におけるわがまを散々聞けていただき  
授業や課外活動をお支えいただき、何から何まで  
大変お世話になりました。普段、なかなか感謝をお  
伝えする機会がなまゝ卒業の日を迎えてしまひ  
ました。この場をお借りいたしまして、卒業生一同を  
代表し、心より謝を申上げます。

次に、本日御列席の保護者の皆様。日に日に生意気になってゆくわが子を心配しながらも、六年間見守ってくださった方が多いのではないだろうか。我々が六年もの間のびのびと育つれたのも、ひとえに保護者の皆様のお支えがあってこそのものであると、改めて感謝申し上げる次第でございます。

六年前の二月十日、我々の入学前説明会にて、当時の梶取学校長が仰ったことを憶えていらっしゃいますか。かくいう私も、はつきりとは憶えていないのですが、武蔵の教職員は責任を持ってわが子息をお預りしますので保護者の皆様は手出しをせずにわが子息の成長を見守ってくだささい」というような旨のお話があったと記憶しております。

このお言葉には、こゝ武蔵は六年を通し

「自主」「自律」の精神を身につけることのできる、類まれなる環境であつて、その環境を精いっぱい活かしてほしいという願いが込められていたことを、拝察するところでもあります。改めまして保護者の皆様には我々のような環境を守ってくださったこと、支えくださった

たことに重ねて感謝申し上げる次第であります。

ここで僭越ながら後輩諸君にも一言申し上げたくお時間を頂戴いたします。

正直なことを申し上げるとするならば、君たちのことは「コロナ禍」に入学して本来の武蔵を知らないかわいいうな子たち」と思っていました。裏を返せば、「自分たちは本来の武蔵の姿を知っている」と思っていたというわけです。

ともすると、君たちは自由なこの環境を満喫する術を知らないまま、やがて卒業してしまおうのではないかと私も思ったものです。しかしながら、その予想を皆さんは鮮やかに打ち破ってくれました。

とはいえ、やはり我々が仰ぐきた先輩方と皆さんは違うものです。むしろ、我々も先輩方と同じ「武蔵生」ではありません。世の中には、感染症の流行然り、人々の在り方を大きく変えるものがたくさんあります。それらによって我々「武蔵生」の在り方も刻一刻と変わるものであるというときには違ひありません。

そのような中で皆さんに、ひとつだけお願いしたい  
ことがあります。

それは「百人百様の武蔵生であってほしい」と  
いうこと、ただそれだけです。

一つこのようですが、武蔵は自由な学び舎です。一人  
一人に学びの自由があり、学校生活の自由があり、  
考え方の自由がある。だからそこにおもしろさがある。  
それぞれが自分自身に芯を持ち、のびのびとやりたい  
ことをやる、ことができる。口では「そんなとわかってる」  
と言う、ことがあっても、実際にそれを体现するのは  
簡単なことではありません。

これは、私自身が在学中になす、とのできなかった、  
悔いの一つでもあります。こんなにも簡単なことがどこか  
意識の外へ行ってしまう、折角の環境を味わい尽  
くすには及ばないまま卒業の時を迎えてしまうのは  
悔しくてなりません。

時に意見のぶつけ合いもする。けんかもする。それでも  
最後は手を取り合う。そういうた人間関係の肝は、  
日常の生活でこそ養われるものです。何度も申し  
上げますが、私自身、わかってるつもりでも、それを

体現することは容易ではありませんでした。

ありきたりな話となつてよい恐縮ながら、後輩諸君にはぜひとも、このことを頭の片隅に留め、武蔵のすばらしい環境を存分に味わう、このできるように意識してほしい、と思う次第であります。

何はともあれ、君たちに大変お世話になったということに変わりはありません。顔を合わせるたびに、互に刺激となり、互に支えとなつた、と思います。すばらしい仲間を得ることができ、心からうれしく思います。今後とも、君たちの手で武蔵の環境を次世代へつなげていく、ください。

さて最後になりましたが、六年間とともに過ごすごことのできた同期の皆さん。初めて顔を合わせた日からこんなにも長い時間が経つてまいりました。明日からそれぞれが別々の環境で過ごすことになるのだと思うと、ただ純粋に寂しさを禁じ得ません。

卒業式というイベントは今や別れる惜しい場ではなく、互いの再出発を祝福する場であるのかも

しれません。この時代、どれだけ離れて暮らしても  
簡単に連絡を取り合うことのできる社会に身を  
置く我々は、その場が一度限りかもしれないという  
実験に乏しいからか、どうも次の機会に甘える  
ばかりで、その場その場を大切にするという意識が  
薄くなっている。

だからこそ、この卒業の日という二度とない機会  
を互いに大切にしたいと思うのであります。

これから先のことは誰にもわかりません。だからこそ、  
今自分がおかれてゐるときを大切にするのは当然  
のことです。

感謝を伝えること、お詫びを伝えること。くだらない話  
で盛り上がることも騒がまわることも。何もかも、この日と  
境に、次の機会が簡単にやってくる保証はありません。  
むしろ、二度とその機会に巡り合うことができない可  
能性は大にあるわけです。

その場その場の縁を大切にす。今日の日を、互  
いにそんな日だと思つて過ごすことができればよいな  
と考えています。

みなさんとの良縁は本当にかげがえのないもの

でした。月並みな言葉になてしまいましたが、六年ともにもすることができたことへの感謝をこめ、申上げたいところであります。

これの世の

再び無—といふことを

命に透り知る人すくな

森信三 ノブゾウ

私自身、皆さんとの一期一会の出会いに感謝するとともに、武蔵に身を置くことができたということも誇りに思い、再出発をしてゆく所存であります。

長くなてしまいましたが、どうせその後「テメエの話

は長えんだよ」と皆さんから叱られることはわかっていきます。とはいえ、歴代の答辞にあったような今後の人生を後押しするようなお話や小難しいコトバが並ぶような実のあるお話もできませんでいた。

今日は飾らず背伸びをせずありのままに  
武蔵で過ごしたことの感謝を申し述べたつもり  
であります。恐縮ながら武蔵という環境のすば  
らしさを少々も皆様と共有できればという願  
いをおくみとりくだされば幸いです。

結びに本日列席の皆様の中々幸と健康  
勝を、また武蔵高等学校中学校および  
学園のさらなる発展を祈念し、そして同期  
揃ってまた江古田の地で再会できることを

願いながら母校武蔵への最大限の賛辞を以て  
答辞に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

令和七年三月十八日

卒業生代表 島田 廉